

山崎郷土叢刊

NO. 101
15.4.20
兵庫県宍粟郡
山崎町教育委員会内
山崎郷土研究会
電話62-2000

路傍観察(三) 世紀を挟んでの考現誌

宇野 正 碓

会報99号までに観察した変化が、まだ続いているので追記する。変化はこれで終わることはないだろう。ことに最近、町村合併が進められ『市制』誕生も予想される時代である。この号で取り上げたい点を、道路別に区分した。変化があるのは国道29号沿線、県道山崎新宮沿線が主で、ついで県道山崎南光沿線などであり、29号沿線では、かなり遠く視野を伸ばすことになる。

一 国道29号沿線

A 中国道以北(山田・庄能間)

○サムシングワールド山崎 平成十四年八月オープン。旧銀ビルストアーとして馴染んでいたが閉店。その跡に入居して、ビデオ、DVDなどのレンタル商品を取り扱い、姫路アメリカ村本店、福崎、大津、東山、西新在家などとレンタルネットワークを

目次

①路傍観察(三) —世紀を挟んでの考現誌—	宇野 正碓	1
②殉死考	浅田 耕三	5
③自然と文化のまぢやまさき —やまさきのホタル—	河本 雅視	7
④戦前の農家の十二月月	谷井 伴夫	9
⑤会報81号〜90号総目次	会 報 部	13
⑥秋の研修旅行記	森本 一二	15
⑦平成十五・十六年度役員名簿		19

組んでいるようだ。

○古本市場山崎 山田二〇九一 平成十四年秋開店。もとブックサンヨーの跡地。取扱い品は新本か古本かの差がある。冊数はかなり多く、CD、DVDも品揃い。

○得々山崎店 スーパーウエルマート、梶間歯科と二十九号線へだてて東側。庄能三四三ー三で十四年秋開店。うどん、丼物を主とする。スーパー前で手頃な軽食堂。

○アサヒコマーシャルショップ生谷店 生谷一五五ー一 元新宮電機の跡(山崎東中学校下) 自然健康食品販売。当地には三ヶ月

宣伝、通信販売に移行予定。従って店舗は借店舗か？本店は広島市。

○稲沢生花店 パチンコ店向かい城下地区から移転。

○庄能ふれあいセンター 農協本店裏側、篤志家の好意で立派な建物が完成ときく。

B 中国道南側（船元・須賀沢区）

○メガネの三城南店 船元一八四一五 平成十四年開店。メガネ

三城店はジャスコ内にもあるが二十九号線の通行客を目標に開店。

○リビング遠山 家具店で以前からの店だが、改築出店で十四年秋。

記述が須賀峠まで及んだついでに、峠にはパチンコ店。弁当店。呉服店など多い。六栗橋詰には酒類の量販店、おおきに屋とマンションは健在だが、玩具店と、喫茶店は閉店。閉店した店の跡には短期出店の貸店にもなっているところがある。

二 山崎中枢部

○藤村貸衣裳店 山田町（総道神社

向かい南側）戦後からの古い店である。

平成十四年中に鉄筋三階建に改築営業中。



○トクサヤ文具店 山崎一八〇一

藤村貸衣裳店に隣接。戦前からの文具店。昨十四年秋より三階鉄筋に改築営業中。文具以外に電子機器、和洋紙類、

スチール家具、書籍、結納用品等各種。

○ことぶき 平成十五年春。旧コンビニポプラ跡。うどん類中心。山崎バス

ターミナルの東側。バス乗客には便利である。

三 県道山崎II新宮沿線

○ミキモク木工品展示館 平成十四年県道山崎新宮線とスーパージャスコの入口の交差点南側。

○業務スーパー山崎店 スーパー材料品販売店。山崎町鶴木五七一一 平成十四年。スーパー専用の材料を一般人に少量でも販売を目的とする。料亭・レストラン・食堂・民宿歓迎。

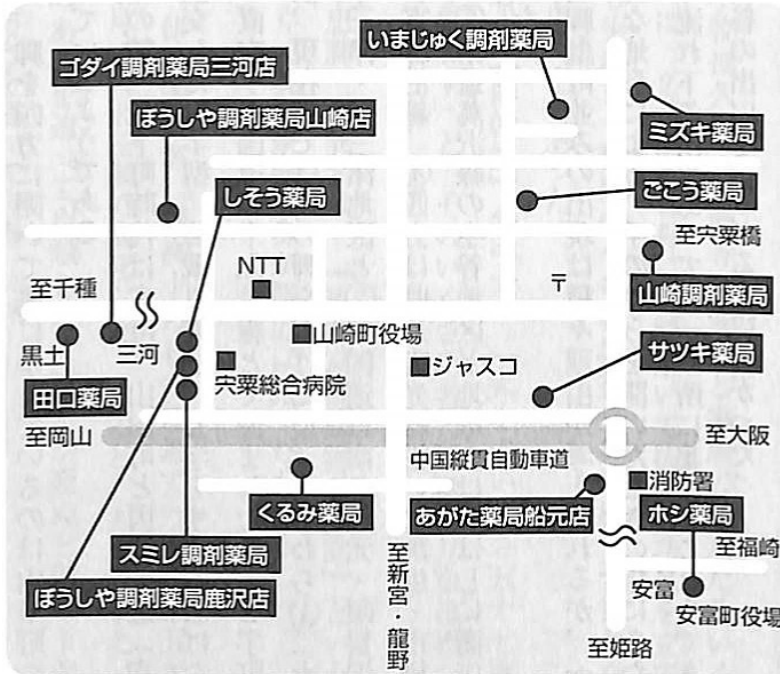
○ガソリンセルフサービス店 平成十四年から。以前のガソリン販売店営業所の設備を使用する。

○パチンコ ターザン山崎店 平成十四年八月開店。ナンバホームセンター南。

四 県道山崎II南光沿線

医薬分業が決定しながら、山崎では実施がなかった。忘れかけた昨今、山崎町の医院にも実施されるようになった。早いところで





は、今宿の調剤薬局が春名整形外科内科の隣りに数年前から始まったが、昨年あたりから目立ってきた。

○ミズキ薬局 公立穴栗総合病院から独立した川瀬クリニックの専門薬局。同クリニックに接続して開業。平成十四年春から。

○ゴダイドラッグ山崎西店 山崎町加生二一〇一二 県立山崎高校の西下。平成十四年七月開店で五四号店となる。

○ヒロイシ薬局 市場四三五一〇 平成十四年九月開店。激安ダイエツトキャンペーンで売りこみ。

○ボウシヤ調剤薬局山崎店 山中医院の改装工事と同時に隣接に開業。平成十五年一月頃。

○ボウシヤ調剤薬局鹿沢店 総合病院一階の事務会計室の隣りにあった薬局から西向かいの建物に移り開業。平成十五年四月。

○しそう調剤薬局 西鹿沢。平成十五年四月開業。みえ美容室の北側に隣接。総合病院の患者を受ける。

○スミレ調剤薬局 総合病院前。

○コメリ 山崎高校西下。ホームセンター。コメリとゴダイドラッグで加生地区は見ちがえるばかり。

五 二十九号沿線（神野・与位）

○レストランもみの樹 与位温泉付属のレストランで名称を改め開店。町内では珍しい土地の人の出資。木々にかこまれた静かな静養地。揖保川の対岸にドライブインながさわもある。

おわりに

平成十五年三月中旬（本紙締切）までに、新規出店、継承営業、改装オープンした主要な店舗は以上のように、これまで数回にわたって観察してきた山崎市街図を総合すると、蛸脚型山崎と言いたくなる。漁村で蛸の頭（胴）の中に棒を差して乾燥する風



景を目にするが、脚を四方に開いて風にゆれているのは山崎町の市街地を形容しているようである。

篠の丸(山)の麓、城下町時代は本町、山田町と因幡街道(富士野町筋)と直交したL字型。終戦以来は、L字をすこし広げた山崎Ⅱ南光線と直交する国道二十九号線とで囲まれた拡大L字町となる。その後、現在までは蛸の脚を広げた型。すなわち①二十九号線沿いに中三津・下三津地区と②中国道以南の船元・須賀沢地区。③県道新宮線沿線。④西方は県道南光線沿いに加生・市場地区。さらには⑤県道葛沢線の生谷地区と地域のはしほしに商店街が出現してきた。

このような蛸脚型町並みの出現は種々理由が考えられるが、一番には、自然的な地形による。手のひらを開いたときの指にあたるのが、谷口を流れ下る川であって、一カ所に集まることもできにくく、商店は谷の出口を選ばざるを得なかった。

二つには江戸期の陣屋と商家の位置は防衛に便利な山麓の段丘上に置いたことで、武家屋敷は勿論、町人屋敷も段丘を下ることはできず狭い土地にかたまる習性を持ち、段丘を下ることはタブーと考えていた。

国道二十九号線と県道山崎Ⅱ南光線の開設により、次第に旧町内を出る心境になったが、それには時間がかかった。経済の成長時代になると地元の資本が活動する前に、地域外からの資本が進出をはじめ、商圏を十分考慮して、各道筋の要地に出店し、占拠してしまった。地元の資本が動いても小規模のものが多く、スー

パー、コンビニにしても、マンションにしても地域外からの進出が多い。

蛸脚型市街地は、自然的理由と、封建時代の政策のまま、地域的計画が明示されないで、自然発生的なものになった。

三つには地価がこんな型をつくり上げたとも言えそうである。商店の立地は安い地価の土地を選ぶからである。さらに現時点で新しい町村合併が言われて、宍粟郡でも昨年末、五町合併、四町合併、三町独立、等々の案が浮上し、町雀(まちすずめ)のいう『宍粟市』の成立も不透明になってきた。最後に落ち着く処に落ち着くとしたら、『蛸脚市』のままでは、恰好の悪い市街になりかねない。

外科・内科

山 中 医 院

院長 山中陽一

山崎町西町・TEL⑥20036

殉死考

浅田 耕三

延宝七年から百九十二年間、山崎の殿様であった本多氏の藩祖は、本多平八郎忠勝である。

家康に過ぎたるものが二つあり唐の頭と本多平八と謳われた平八郎忠勝の武勇譚はそのまま徳川家の躍進史である。

三方が原、小牧長久手、本能寺の変など家康の名だたるいくさ、及至危機には、必ずかたわらに忠勝がいて抜群の功名を立てている。しかも生涯五十数度のその戦場往来に手疵一つ負わなかったという豪勇の士であった。

新井白石が著書『藩翰譜』の中で、「大小のいくさ五十七度、終に一所の手も負わず」と、そのいくさ巧者と勇猛ぶりをほめたたえている。

この「傷なし忠勝」の異名は、『東照宮様御物具物語』という書物が典拠らしく、晩年家康自身が側近に語ったものらしい。ところが……。

その忠勝は、伊勢国桑名、禄高十萬石の任地で、慶長十五年（一六一〇）十月に六十三歳で病死した。すると、大谷三平という家来が忠勝のあとを追って自殺した。三平が死ぬと彼の下僕が、また主人のあとを慕って自害した。

その下僕が辞世を遺している。

死にともな ああ死にともな

さりとはは 君が情けの今は恨めし

「さりとはは」の用い方が少々おかしいけれど、何とも直截簡明、真つ正直な歌ではある。よほど死にともなかつたのである。それ程なら死なねばよさそうなものを、しかしどうでも死ななければならぬ程、三平との間に切羽詰まった「情」があつたのだらう。

その「情」という男どうしの濃密な関係とは、すなわち「衆道」と呼ばれる間柄である。

忠勝と三平、三平と下僕の間、そんな情的関係があつたのである。

鹿の角の前立の兜をかぶり、トンボ切りという名槍を小脇に戦場を疾駆し、たった五百の小勢で秀吉軍一万五千とわたり合った名将忠勝にそんな好みがあつたとはいひどく意外な感じがする。が、歴史上の人物を、時代を隔て

旅行・観劇・航空券

すぐお応えいたします



神姫バス(株)
神姫観光 山崎支店

〒671-2576 兵庫県宍粟郡山崎町鹿沢68
(神姫バス山崎待合所内)
TEL(0790)62-7588
FAX(0790)62-7589

た人間の感覚や常識であげつらうのは全く意味の無いこと、その時代にはその時代の必然があったのである。戦国武士にその嗜好が多かったのは、戦陣に女性を伴う事ができなかったのと、もう一つは戦国乱世は下剋上の風が吹き荒れた時代で、味方や家来といえどもいつ自分の寝首を狙ってくるかも知れぬ一寸の油断もならぬ社会であったから、身近に「情」でつながる最も信頼できる人物を置いておく必要があったのだといわれる。

姫路城を建てた池田輝政の三男池田忠雄にもその好みがあった。有名な荒木又右衛門の伊賀上野鍵屋の辻の仇討も、そもその原因は、忠雄がかねて備前随一の美少年と評判だった渡辺某という少年の武士を寵愛し、それに嫉妬した河合又五郎が渡辺を斬って逃走したことによる。

忠雄は疱瘡を患って病死するが、その翌日、加藤主膳匠という家来が、忠雄の仮墓の墓前で切腹する。忠雄の遺骸は茶毘ぢびにふさされて岡山の清泰院に葬られるが、主膳匠の心情を憐れんで、二人は同じ墓穴に入れられた。昭和三十九年に発掘改葬された際それがわかった。

忠勝が死んだ四十一年後の慶安四年（一六五二）に江戸幕府三代將軍徳川家光が四十八歳で亡くなった。すると老中堀田正盛、同じく老中阿部重次、小十人頭奥山安重、書院番頭三枝守恵らが家老に殉死し、又それぞれの主人に心中立てして何人かの家来が追腹を切った。このうち、微禄の身から家老の特別の寵愛をうけ、ついに佐倉十一万石の大名にとりたてられた堀田正盛ほか

一人二人には、家老との間に衆道の関係があったようだが、そんな特殊な関係は全くなく、生前の家光に、普通の主従関係で仕えていただけの者もあった。

この殉死礼讃の風潮は各大家家にも及び、森鷗外の『阿部一族』で有名な細川忠利の殉死者など十九名にもほった。しかし、それらの殉死者も忠利と特別な関係はなく、ただ日常忠利の近辺に仕えていただけの者であった。

家光の衆道の癖は特に激しかったようだが、武家社会でこれにまつわるトラブルは枚挙にいとまがない。だが、それ程多かった衆道の血なまぐさい事件も十七世紀末をもってぴたりと史料から消えてしまう。

やはり戦国の蛮風だったのである。そして幕府の禁止令もきいたのであろう。

各大家家で殉死者の数を自慢し合ったり、子や孫を出世させるための商腹あむらひばら（『明良洪範』）という馬鹿げた風習も、四代家綱の寛文三年（一六六三）に幕府の禁止令が出てから誰一人やる者はなくなった。

禁止令を推進したのは会津藩主保科正之のヒューマニズムであったといわれる。山崎闇斎の愛弟子はやはり時代に傑出した人物だったのである。「死にともな」の下僕が死んで五十三年後であった。

自然と文化のまち やまさき

—— やまさきのホタル ——

河本雅規

○ホタルと胡弓の夕べ

日が落ち、たそがれが迫るころ、せせらぎの音が耳に快く響いてくる。そのせせらぎの音に調和して、カジカガエルの鳴き声が水面をころがすように響く。その水面上をパーッとまたパーッと光が流れて行く。そして道を隔てたお堂の前から乙女達が奏でる済み切った胡弓の調べが聞こえて来る。まさに幽玄の世界である。これは、山崎町塩田明証寺での「ホタルと胡弓の夕べ」のひとつときです。

○やまさきのホタル

山崎町は、主流である揖保川と、菅野川や伊沢川そして三谷川など多くの支流があり、それらの支流や灌漑用水路にはたくさんゲンジボタルが、そしてまた田の畦や溝にはヘイケボタルが生息しています。六月の田植え時期になるとこれらのホタルは川面を飛び交い、そしてまた田植えの終わった田の



水面に光を映しながら、飛び交っています。

ホタルは、一時期農薬や家庭排水の影響で減少していましたが、近年昔の姿に甦りつつあります。菅野川や伊沢川などの上流では昔ながらの面影を残し、ネコヤナギや竹やぶに沿って飛び交い、下流の方では中州のヨシなど草の上や木立をシルエットに乱舞する光景も見られ、加生当たりでは多い時には数百匹のホタルの一斉明滅の情景も目にすることが出来ます。

ではいつ頃見に行けば良いのだろうかと言うことになり、これはなかなか難しい事ですが、先ず第一に時期です。平年では五月下旬から飛び始め、六月中旬頃からピークになり、そして六月下旬になるとホタルも少なくなると、草むらの中で雌のホタルが弱く光っている程度になります。しかし、年によっては桜の開花時期がずれるようにホタルも多少前後する事があります。なお、山崎町は面積も広く、南部から北部までには三日、一週間の遅れもあります。

ホタルはまた気象や天候によっても左右されます。つまり気温、湿度、風、月明かり、時間等で随分飛ぶ状態が違ってきます。二十℃以上の曇天で湿度が高く無風の暗い夜、そして飛び始めの頃は八時過ぎの夕暮れ時が一番よく飛び立ちます。しかし、これも時期が遅れるに従い時間的には乱れてきます。

○ゲンジボタルとヘイケボタル

山崎町にはゲンジボタルとヘイケボタルがいます。ヒメボタルはまだ当地では見たことがありませんが、奥地で見つかるかも知

れません。

世界中で二〇〇〇種余りもあるホタルのほとんどは、陸（お
か）で生育しますが、幼虫時代、水中生活をするということだ
世界的にも珍しいのが日本のゲンジボタルとヘイケボタルです。ゲ
ンジの体長は雄十四ミリ前後、雌は十八ミリ前後と少し大きく、
ウシボタルと呼ばれたりもします。一方ヘイケは雄十ミリ、雌十
二ミリ前後とゲンジボタルよりも小さく、そしてただ小さいだけ
でなく胸部部の赤色部にある黒い斑紋がゲンジは十字形であり、
ヘイケのそれは太い縦線一本であるので、すぐに見分ける事が出
来ます。

また、雌雄は尾部の発光するところで見分けます。二節光つて
いるのが雄で、一節光り、あとの一節は赤色の雌です。

○ホタルの光り方

自然界には到底人間の及ばない事がたくさんありますが、ホタ
ルの光もその中の一つだと思えます。科学が進んだとはいえホタ
ルの光のような全く熱の伴わない発光は未だに発明出来ていませ
ん。原理は発光物質のルシフェリンと発光酵素であるルシフェ
ラーゼが反応して酸化するときにマグネシウム等も必要として発
光するという事は分かっているようですが、まだ実現には至っ
ていません。また、ホタルの発光は成虫になってからだけでな
く、卵や幼虫そして蛹（さなぎ）の時にも光ります。これも感動
を覚える光です。

ホタルはなぜ光るのでしょう。これは蜂のように警戒色として

光るのでは？とか、或いは求愛か？と言われて来ましたが、現在
は研究の結果お互いが愛を求めて光るという事が分かってきたよ
うです。夕暮れになると雄は飛び立ち始め、たくさん群れをなし
て飛び交い、このときなぜか一斉明滅をします。雌は草むらで光
りますがあまり飛びません。しかし、雄が近づいてくると強くフ
ラッシュ発光で合図を送りカップルができます。

○ホタルの食べ物と生育

ホタルは一体何を食べているのでしょう。幼虫の時は水中（川）
にいてカワニナをエサにします。七月頃三ミリ程の稚幼虫は、丁
度この頃カワニナがたくさん産み落とした二〜三ミリ程の稚貝を
食べ、そして大きくなる
に従い体に合った大きさ
の貝を食べて益々大きく
なって行きます。このと
きカワニナは昼行性です
が、ホタルは夜行性で、
夜カワニナが眠っている
ときに襲います。そして
口から出した液で肉を溶
かしながら食べていくよ
うです。

翌春の三月末頃になる
と、体長三センチ程に成

心のゆとりのおてつだい

安井書店

YASUI BOOKS

TEL (0790) 62-0700
FAX (0790) 62-2117
TEL (0790) 64-2051
FAX (0790) 64-2052
本店 山崎町中井
ブックランド
さつき通り

長した成熟幼虫は雨の日の夜、上陸して砂の中で蛹（さなぎ）になり、六月上旬成虫になり飛び立っていきます。

成虫になると夜露を飲むだけで。二週間ほどの寿命で終わります。その間に川岸の木陰のコケなどの湿った所に卵を産み付けて一生を終わります。

○ホタルを大切に

ホタルは化石動物といわれるように非常に貴重な昆虫です。それが少し増加傾向にあるとはいえ昔に比べると随分と減少しています。この貴重なホタルを何としても大切に、守って行かなければならないと思います。

そのためには川を汚さない、ビニールなどのゴミを捨てない、そして美しい、自然美を生かした川にし、そのうえホタルを採らない、特にホタル業者などの侵入を許さない事が大切だと思います。地域の人達みんなの力でホタルをはじめ自然を守り自然豊かな山崎町になることを願って止みません。

きれいなカラープリントの店



Specialty Camera Shop
コーエーカメラ

本店 宍粟郡山崎町東鹿沢 26-3 ☎ 62 - 2089
フリーダイヤル ☎ 0120 - 440 - 990
F A X 0790 - 62 - 7429
咲ランド店 T E L 0790 - 63 - 0533

戦前の農家の十二ヶ月

谷 井 伴 夫

一月 元旦祭 一月一日又は二日で神主さんの都合でいずれかの日に就行されていたようだ。戦前は三日月より舟引神主さんが来ておられた。又その後千種町より春名神主さんが一時来ておられた。今の大住さんは戦時中、父が海軍で出征されておられたし、戦後は県職員として神戸市に勤めておられたので退職されてから神職として戻られた。現在の大住先生は昭和の終わり頃からお父さんと交替されながら南光町土万地区菅野地区の各神社を持って奉仕しておられます。

七草がゆ、春の七草をカユにして食し一年の健康を願った行事、八日まち、別名「山の神」とも言って山仕事に従事する人達（一年を健康で事故なく働く事を祈願した行事（現在はスタレているが）とんど焼き、昔は各所で隣保毎に柴や藁など持ち寄ってシメ飾りや子供の書初めなどを焼いて高く舞い上がると今年は上手になると喜んだりした。今は自治会全体で農村広場にて自治会行事となっている。松の内正月月の十五日迄を松の内と言っている。

二月 旧正月を祝っていた時期もあった戦前は初庚申 昔は風呂のタキ口やイロリ、カマドなどを赤土で修理をした（ポタ餅）
節分 各家とも軒先にヒイラギの枝にイワシの頭を差して悪魔払いをしたり豆まき、船越の鬼追いにお参りもした。初午や初庚申

は年により三月になる時もある。

三月 春の祈願祭、稻荷祭、お接待あり、塩山では二ヶ所お稻荷

さんがあつてあずき飯のおにぎりを貰うのが楽しみだった。

お彼岸（春分の日） 船越山へ大沢の小河内のタテゴモを越えて歩いておにぎりのお弁当を持って小遣い銭に五銭程もらって行きタイ焼きなど少し買って一番上の奥の院迄お参りした。春はよく雨が降る事があつた。

四月 節句 ヒナ様を飾り子供達に巻き寿司、アラレなどの接待

をした。子供は男女別々に各戸を回りおひな様を見せてと言つて家上がり巻き寿司や豆イリ、アラレなどをいただいた。おヒナ様には桃や梅の花を飾りネコヤナギの枝に花草子を飾りつけ、赤や青の餅、特に三色のヒシ餅をお供えた。

ヒナ様も殆ど掛け軸で菅原道真の天神様が牛に乗っているのや、新田義貞が稲村ヶ崎で海に陣大刀を手にして祈つている様なものとか、足柄山の金太郎が動物たちと相撲を取っている絵が書いてあつた。今の様な段飾りはなかつた。自分は男だったので女の子のおヒナ様がどのようなものかおぼえていません。

二十一日のお大師さんは日曜日になることは珍しかった。学校の休み時間に近くの大町や寺の観音様へ友達と走ってもらいに行きました。時々授業が始まっていて叱られ廊下に立たされる事もありました。現在は二十一日に近い日曜日になっておりますが、

四月と五月の間に春の大掃除が実施されて自治会の衛生係や消防団の方が見て回っていました。

五月 端午の節句 卯月一日などかしわ餅が楽しみだった。卯月

八日にはツツジの花を竹笹の先に高く飾つたりした。端午の節句（ショウブ節句）にはカシワ餅と家の軒下にショウブの葉を差したり風呂に入れて入浴した。又、五月は田植え準備と苗代ごしらえに農家は多忙であつた。麦の取り入れ作業が始まり六月の田植えまでに田を空けて田植え準備にはいった。麦は手刈りでついでに千歯コキで穂を落とす家に持ち帰り庭で乾かして脱穀した。脱穀もむしろの上の麦を落した。

今は苗づくりも箱苗育苗であり育苗センターよりに購入する農家が多くなつた。

六月 田植 昔は早い稲

で六月のかけりより山田の田植が始まり、ナル田では六月十日頃より雨を待ちながら牛や馬を使って田ごしらえをし、六月



二十二日の中を境に終わる様でした。田植の為に油紙を張った雨ゴザや道谷傘やヒノキ笠を買ったものだ。

牛に牛鍬を引かせて田を起こし馬鍬で細かく碎き大変な労力で準備をしておりました。その間に女性は苗取りを一畝当たり何十束と数をかぞえながら取っていました。田植も正条機で六寸位の間隔で三人〜五人位横一列になって後へと植えます。

現在の様にズボンやモンペは戦後ですので女性は腰巻き姿でした。又、機械はなにもなく本当の手植え、牛馬による労働でした。

子供も学校行事として苗の虫取りに行き、低学年生はゾウリ持ちで高学年の生徒は苗の青虫や蛾を捕らえたり卵を産みつけているのをとりました。多く取った子供は先生より褒められました。

七月 夏祭り 九日が決まりました。特に行事はなかったようでした。夏祭りにはお初穂として麦を各戸一升〜三升持参し、お供えとして神主さんのお礼用は金に替え、残りは自治会の小使いさん（歩きさん）の給料として支払っていました。

七夕まつり 旧で八月七日盆に重なり特に今の様に行っていない。シヨウキ相撲いっより始まったか分からないが自治会主催で川原に土俵をつくって小学生の男の子がとった。取る毎に勝っても負けても壺銭をもらい、五銭か六銭位になった。行事は田村信夫君の祖父がいつもしておられた自分も高等科一年の折

取っていて左手を骨折し佐用の藤網さんへ夏休み中通院した苦しい思い出があります。

八月 お盆で盆踊り、墓参り、精霊流しなど新仏参りと仲々多忙であった。盆踊りも青年団主催で八月に入ると踊りの練習を十三日より十六日迄金屋でおどった。又、新仏のある折りはその家の庭先で踊りました。二十四日の満灯には愛宕山やお地藏さん氏神さん井戸などに松の木でつくったタイマツを使用しておりました。ラジオ体操は夏休みになるとやっていました。

九月 ハツサク祭、虫送り、秋の豊作を祈願した村の端から端まで。秋分の日 彼岸参りと言って船越山へお参りした。春と同じです。九月十月の間に秋の大掃除、春と同じ、当時は清潔といていた。

十月 秋祭り、十九日が決まりました。翌日の二十日は小学校の運動会と決まりました。運動会が終わると一斉に稲刈りが始まる。子供も農繁期休みで手に合う手伝いをした。

全部手での鎌を使って一度に四株か五株程刈りそれを四回程積み重ねておき、別の者がワラで束ねて三掴み一ツに穂を下にして立てて行く。田ごとの稲刈りが終わると一問程の木を三本使って立て長いハデをのせて稲木づくりをし、稲を一掴みずつ掛けて

天日乾をする。ある程度乾かすと足ふみの稲こき機で籾を落とし、又、天日乾燥してから夜なべでトウス引きをし籾柄を除き万石にかけ唐箕選か米選機で改良米として俵にいれ出荷しました。家によつては庭先の畑などに八段か九段の大きい稲木（ハデ）を作つて掛けていました。晩までに背に負い元氣な者は五十捆も六十捆も前後に荷をして運んだ。それを陽が暮れてからハデに掛けたものです。農家は朝星夜星で働き続けるのが宿命だと思つていたのです。

稲刈りが一応終わると稲こきまでの間に麦蒔きに入ります。子供も休みの日など朝早くから株切りを手伝いました。牛ですいて畝の形が出来ると鍬で谷の土を上げて麦を蒔くズンを鍬で掘りました。麦を蒔きおわると子供は株拾いを致しました。

十一月にはいった頃が麦蒔きの最中であつたようです。麦蒔きが終わると稲こきが始まります。私の子供の頃は全戸完結方式で何もかも自家で処理していたようです。終戦後は農会で動力組合を結成し籾すり機発動機米選機を購入し、発動機組合員の中で専門に扱う者を決めて村中を回り籾すりをいたしました。私も二年程他の人と二人で村中を廻つたことを思い出します。おやつに春はジャガイモ秋はサツマイモのふかした物がどの家にもいつても出されました。

終戦当時は重油の質が悪いので籾や麦の穂の乾きが悪いとよく発動機が止まり、籾すり機がつまって仲々大変だつたです。十二月の上旬頃までには終わつたように思います。

十二月に入るとオシメ祭りがありました。大きい焚き火の廻りを沢山の子供が走りまわり賑やかであつた。又、餅投げがありました。悪い考えの子供は大根を切つてきて餅投げに合せて大根を投げたりしたもので本当のイタズラだったので大人も笑つて見過ごしていたようです。又、十一月頃より各隣保毎に子供の火の用心が始まり夕方「マッチ一本火事の元」などと呼んで拍子木を鳴らしてカマドを見たり風呂の口を見たりしていました。

冬が終わるとお礼の食事会を隣保ごとでもらいました。十二月末になると山崎などの商売人が誓文払い（今の売出し）をいたしますので父が町へ行きゴム靴や足袋、メリヤスのシャツなどを買つて来てくれました。正月用でした。色々と十二ヶ月の農家様子を書いてみましたが仲々思う様にまとまりませんでした。まだまだ沢山なことがあるホンノ一部分だけです。

注 大正末期 昭和初期にはお米壹升が四十銭男の人の日当六十銭でお酒は壹升壹円拾五銭だつたそうです。

山崎郷土研究会会報総目次

町 教 委

与位高尾遺跡の発掘
事務局だより

「山崎郷土会報」 第八十一号 平成五年四月二十五日発行

「山崎郷土会報」 第八十三号 平成六年四月三十日発行

三重県鳥羽市神島 八代神社の鏡について 片山 昭悟

明治維新の話(三) 堀口 春夫

定書一礼ほか二(尼崎藩領庄屋文書) 久保 寅夫

山崎藩と安志藩の二、三の関わりについて 野中 龍二

秋の旅記 岸本 正理

闇斎神社にカイの木植樹「瑞雲双鸞八花鏡」を出版

下町巖石神社の夫婦ヒノキが町指定天然記念物に

役員名簿

事務局だより

「山崎郷土会報」 第八十二号 平成五年九月十日発行

奥播磨の製鉄史 たたらの解明(一) 上田 勝

山崎町梵鐘集成 金屋村鋳物師長谷川氏を中心にして

片山 昭悟

宍粟郡郷土研究会の発足史 志水 豊章

明治維新の話(四) 堀口 春夫

御普請願上帳(尼崎藩領庄屋文書) 久保 寅夫

春の旅記 堀口 正信

町 教 委

「山崎郷土会報」 第八十四号 平成六年九月十二日発行

奥播磨の製鉄史 たたらの解明(二) 上田 勝

宍粟郡の梵鐘集成 一宮の梵鐘 片山 昭悟

明治維新の話(五) 堀口 春夫

資料と小説のあいだ 浅田 耕三

人別越手形の事ほか(尼崎藩領庄屋文書) 久保 寅夫

秋の研修旅行記 織金 義雄

新刊『安富町史』の紹介 志水 出世

校訂播州宍粟郡守令交代記復刊なる

鹿沢城跡石碑建立 会 報 部

事務局だより 史 跡 部

「山崎郷土会報」 第八十四号 平成六年九月十二日発行

宍粟郡の梵鐘集成 波賀・千種の梵鐘 片山 昭悟

山崎町の力石 高島 慎助

明治維新の話(六) 堀口 春夫

忠朝討死 浅田 耕三

井堰普請願上帳(尼崎藩領庄屋文書) 久保 寅夫

春の研修旅行記

事務局だより

垣口 正信

「山崎郷土会報」 第八十七号

平成八年四月三十日発行

「山崎郷土会報」 第八十五号

平成七年四月三十日発行

高家庄と宇野氏(上)

松平備後守恒元と家中分限帳

金屋村鑄物師長谷川氏の研究

年貢米銀仮割帳(三) 尼崎藩庄屋文書

秋の研修旅行記

事務局だより

岩井 忠彦

堀口 春夫

片山 昭悟

久保 寅夫

垣口 正信

長水軍記について

宍粟郡の梵鐘集成 安富町の梵鐘

明治維新の話(七)

年貢米銀仮割帳(一) 尼崎藩庄屋文書

阪神淡路大震災と山崎町

義人時朝公の追悼詩

さざなみの滋賀の湖岸を訪ねて

役員名簿

事務局だより

安黒 義郎

片山 昭悟

堀口 春夫

久保 寅夫

河本 雅規

小川 登

岸本 正理

「山崎郷土会報」 第八十八号

平成八年九月十日発行

高家庄と宇野氏(下)

山崎町の変遷と今後 街区部の歴史地理的視点から

池田家老渕本弥兵衛の日記(一)

山崎町の明治・大正・昭和の梵鐘について

年貢米銀仮割帳(四) 尼崎藩庄屋文書

春の研修旅行記

事務局だより

岩井 忠彦

宇野 正碓

堀口 春夫

片山 昭悟

久保 寅夫

浅田 耕三

「山崎郷土会報」 第八十六号

平成七年九月十日発行

明治初年の話(八)

佐用郡の梵鐘 南光町の梵鐘を中心にして

年貢米銀仮割帳(二) 尼崎藩庄屋文書

讃岐路研修旅行記

スクイム市訪問記

鹿沢城搦手(からめて) 門 石碑の設置について

堀口 春夫

片山 昭悟

久保 寅夫

清水 美好

大谷 司郎

史 跡 部

「山崎郷土会報」 第八十九号

平成九年四月三十日発行

山崎町の変遷と今後(二)

宇野 正碓

松平備後守書簡集(一)

堀口 春夫

金谷譲尾の観音様と金屋村鑄物師長谷川氏について

片山 昭悟

古き家並みを訪ねて

岸本 正理

事務局だより

平成九・十年度役員名簿

「山崎郷土会報」 第九十号

平成九年九月十六日発行

山崎町の変遷と今後(三)

宇野 正碓

松平備後守・豊前守書簡集(二)

堀口 春夫

長谷川孫兵衛・五郎兵衛製作による梵鐘・半鐘集成

片山 昭悟

生野変始末

浅田 耕三

いにしへの明日香を訪ねて

大上 善示

事務局だより

秋の研修旅行

森本 一二一

十月六日、今回は紀伊・海南のバスの旅だ。六時五十分家を出る。どんよりと曇って、いつ降り出しても不思議のない空模様だ。

商店街の駐車場に車をあずけ、神姫のバス停に着くと、待合室に春名幹事長が既に来ておられ、やがて織金研修部長の案内でバスに乗込む。

参加者数を聞くと三十九名との事。予定の四十名には足りないが、まずまずの人数だ。

定刻七時三十分、運転手さんが安全運転の挨拶をして発車する。

車が中国道に入ると、ガイドさんが朝の挨拶と行程の概要を説明し、マイクを渡されたので、私も簡単に朝の挨拶をする。

次に織金部長さんが、綿密に作られた、旅行案内書を配られ、研修の要点を説明された。

空は益々暗い。何とか一日お天気が持ちますようにと祈らずにはおれない。

八時十五分、赤松PAで用便をすませ、車が出ると、今度は織金部長が労作の旅行地案内のビデオを始められた。

これは和歌山県と海南市観光の概略案内からはじまり、特に見

学を中心である根来寺と黒江塗の映像を細かに取り入れ、更に熊野古道や藤白神社などについて、本日の観光と研修の要点を把握できるようにと、周到に配慮されたものでした。

そのビデオに見入っていますと、あまり外の景色にも気持ちを取られないまま、関西空港の見えるあたり迄も来ていました。

九時半、岸和田SAでトイレ休憩、泉南インターで地道に下り、岩手線で山の中に入り、風吹トンネルを抜けると、そこはもう和歌山県で岩手町の標識が出ていました。

最初の見学地、根来寺はこの町にあり、峠を下って本道を左に折れると、間もなく広い駐車場に入った。

そこは大きな山の谷間で、木々の茂った間から、あちこちと塔や寺の屋根が見え、一帯が広大な寺域になっていることがよくわかる。

私たちはその中の小道を通り、谷川の橋を渡り、案内所へ向かいました。周囲には楓の老木が枝を交えて天空を覆い、紅葉の頃のながめはさこそ、と偲ばれる風情でありました。

料金所を通ると、先ず目の前に見なれぬ形の堂々たる大塔が威圧するように立っていました。

やがて、放送が鳴り出し、場内案内が始まりました。

この塔は明応五（一四九六）年に建立された我が国最大の木造多宝塔で、秀吉の兵火を免れた貴重な国宝建造物であるとの事でした。

また、この根来寺は真言宗の寺ですが、教義上の争いが生じて

分派し、この地に移り、新義教学の根本道場として大いに栄え、一時は寺領七十二万石、僧兵一万を擁する宗教軍事集団として、戦国の世に独立した別世界を築いていたのですが、その為、天下統一の秀吉と合わず、紀州征伐の惨状を招き、この大塔と大師堂を除く、二千余の堂塔のすべてを焼き尽くされたとの事でありました。

その後、江戸期に入り、再建が進み、木々も年古りて、桜や紅葉の名所とはなりましたが、それでも尚、往事の繁栄には及ぶべくもないと放送していました。

私たちはこの大塔の前を右手に進み、大伝法院へお詣りして引き返し、案内所を出て谷川を渡り、本堂に上がりました。

長い廊下にはたくさん
の部屋がありました
が、外の庭園は古く落ち着いたすばらしい日本庭園でありました。

帰路、私は一人はなれて、道の傍らにある墓地へ上がりました。そこは集合墓地で、何百という五輪塔・その間に何十と


贈答品・記念品・名入タオル・ギフト全般 まどか



ギフトショップ
ロワール

宍粟郡山崎町中井105-1(ジャスコ南)
TEL 0790(62)8726
FAX 0790(62)9681

ご用命は通話無料のフリーダイヤルでどうぞ

 0120-338726

も知れない宝篋印塔が集められていました。これらの塔は地域一帯に散在していた戦死者の無縁塔ではなからうかと考える時、今は静かで平和なこの寺に、戦国の歴史を証明する悲惨な証人であると考えられ、しばし瞑目して下りました。

十一時半頃、車に乗り、次の昼食会場の紀三井寺「レストランはやし」に向かいました。

四十分ばかりの昼食を終えて、バスはまた地道を走り、海南市の中野酒造、長久邸に着きました。ここは銘酒「長久」の醸造元で広大な敷地を持っています。

車を降り門を入ると、案内の女子職員がものなれた口調で説明しながら先導する。酒倉を次々と廻ったが、一升びん三万本分の酒が入っているという、高い塔のよいうな酒筒が何十と並んでいるのは偉観であり、また古い酒造の道具が陳列してある博物館も見事でしたが、三千坪という広い池を庭にした百何十畳の客殿の壮大さには目を見はりました。

そしてこれを一代で築き上げたという、中野酒造先代さんの偉業に感嘆しました。

最後に土産物売場に入り、酒や



ワイン等の試飲をし、皆さん大変お気に入られたようで、土産物を買っておられました。

外に出て、次は熊野古道の五大王子の一つ藤白神社に行く事にしましたが、この道はバスが入られないので、ここから歩きました。

狭い路地を通り、国道の下をくぐり、十分ばかりで大きな鳥居のある坂の下に着きました。

そこは急な石段で八十段ばかり、年寄りの登るには苦しい階段でしたが、その登りづめに大きな鳥居がありました。

この鳥居が有名な熊野古道一の鳥居といわれるものです。

鳥居の正面を真っ直ぐ進むと、藤白神社の社殿があります。別段大きなお宮というわけではありませんが、何かゆかしく、社叢の楠の大木にも歴史の古さを感じました。

参拝をすませ、右手熊野古道に入って行くと、間もなく有間皇子の碑の前に出ました。

家があれば筈に盛る飯を草枕

旅にしあれば椎の葉に盛る

という万葉集にも出ている有名な歌が、大きな石碑に刻んでありました。

有間皇子は皇徳天皇の皇子ですが、蘇我の赤兄に欺かれ、皇太子中大兄皇子との争いに敗れ、捉われの身となり、十九才の若さで、この藤白坂で絞首の刑に処せられたまうたということです。

まことに、祈りの熊野古道はまた、都人の観光の道でもあったと思うのですが、又このような悲しい物語の道でもあったのですね。

藤白王子で時間を取ったので、予定を三十分ばかり遅れて次の目的、黒江の紀州漆器伝統会館へ着きました。

ここでは車中で、アンケートが取ってあったので希望に応じ三班に分かれ、私たち二十名ばかりは蒔絵体験をするため三階に上がりました。

漆器のお盆に下絵が縁取りしてある、その中に色付けする作業です。私は朱色の盆に、鉄せんの花が二輪あるものを取りました。

線書きの中に色を付け、金粉や色粉で仕上げるのです。

指導員の方の見事な手さばきで、またたく間に、色あざやかな花と葉が浮び上がりました。

他の方々も、黒や朱色の盆に、思い思いの図柄を求めて色付けをし、皆さん満足そうでありました。

私たちと別れて、蒔絵のとき出しに行かれた方や街並み見学の方も帰られ、皆さん揃って、最後の黒潮市場に急ぎました。

ここは近年、博覧会があった跡地のようで西欧風の珍しい洋館が建ち並び、先端の海浜を目指す市場がありました。

日曜日の為か大変な人出で、時間が遅れている事もあり、急いで市場の中を一巡しました。どこも同じような魚菜の市場であり、あまり見る物もなく、土産物を申し訳に少々買って車に帰り

ました。

帰路は海南東インターから自動車道に乗り込み、一路山崎を目指しました。

車に乗ると待っていたように雨が降り出しました。本当に精進の良い、お天気者ばかりだったのでしょう。だから歩く所が多い旅でしたが、降らず、照らずの絶好の旅日よりになったのでしよう。

藤白王子に時間を取って、後半は予定が遅れていたのですが、皆さん元気で事故もなく山崎には予定の七時半きっちりに着きましたので満点旅行といいたい所ですが。

山崎で下車するとそこは土砂降りの大雨、旅のつかれ所ではありません。お互い別れの挨拶もそこそこ、あわてふためき駐車場へ一目散にかけ出しました。

呉服とジュエリー

とくさや

本店 本町(さつき通り) 62-1680

咲ランド 3F 呉服のとくさや 63-0568

2F ジュエリーとくさや 63-0557

平成十五・十六年度役員

役職名	氏名	住所	電話
名誉会長	白谷 敏明		
顧問	赤松 茂毅		
顧問	壺阪 壽		
会長	森本 一二		
副会長	柳田 弘		
会報部長	大谷 司郎		
研修部長	織金 達雄		
史跡部長	志水 正信		
事務局長	春名 俊夫		
山崎地区西支部長	木山 延二		
山崎地区東支部長	福井 卓巳		
山崎地区北支部長	横野 一男		
城下地区支部長	西村 清		
戸原地区支部長	金山 敏史		
河東地区支部長	織金 達雄		
神野地区支部長	春名 俊夫		
蔦沢地区支部長	福本 亀男		
菅野地区支部長	河本 雅視		
土万地区支部長	高畑 義一		
監事	河本 雅視		
監事	三宅 保雄		

平成十五・十六年度											各部構成	
史跡部長 志水 正信			研修部長 織金 達雄				会報部長 大谷 司郎					
柳田 弘	伊藤 一郎	山根 一視	横野 一男	垣口ちゑ子	栗下 憲一	木山 善示	岸本 実了	浅田 耕三	河本 雅視	織金 達雄	藤村 清一	谷川 ヒテ